

透析療法の多様性の意義 ～オーバーナイト透析のご紹介～

日本の血液透析療法は世界に冠たる優れた成績を示しています。しかし、腎代替療法を必要とする患者さんの高齢化、糖尿病性腎症の増加、心臓・脳・血管合併症の増加、長期透析合併症の壁が、透析患者さんの十分な社会復帰や良質なADLに大きく立ちはだかっています。透析療法と関連領域の治療法進歩により打破してきたいくつかの壁もあります。しかし、残念なことに間欠的治療である血液透析療法に関連した打破できない壁が存在します。持続的治療の腹膜透析療法にも限界があり、我が国ではほとんど増加していません。根治治療である腎移植は、腎提供者なくして成立しない治療で、欧米に比べて実施件数がきわめて少ない状況です。

透析療法の壁への打開に「透析療法の多様性」、特に1回6時間以上の「長時間透析」に注目が集まっています。長時間透析には、施設での長時間透析（病院透析）と在宅での長時間透析（家庭透析）があります。

増子記念病院には4室の透析室とクリニック内に透析室があり、各透析室の治療目的を明確にし患者さんを選択し、患者さんの体力に配慮し、異なった病態や合併症への介入、リハビリなどを行っています。

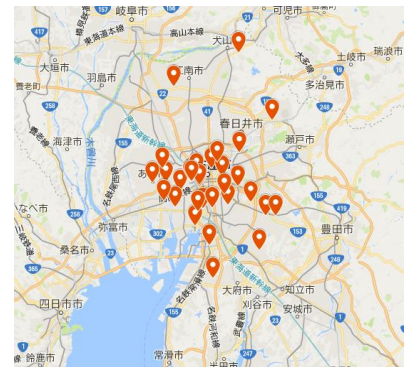
十分な透析、しっかりした栄養確保、適切な運動が元気で長生きする透析療法の秘訣です。なかでもより長い透析時間を確保することが、生命予後を改善し、社会生活水準を高めることが示されています。増子記念病院では、長時間透析として、昼間時間帯の6時間以上透析と深夜透析（オーバーナイト透析）での8時間透析を行っています。まだ、患者数は少ないですが、家庭透析も行っています。HDP(週当たり透析回数²×透析時間) > 70が優れた透析の指標とされ、オーバーナイト透析は72となります。

● オーバーナイト透析 適応条件

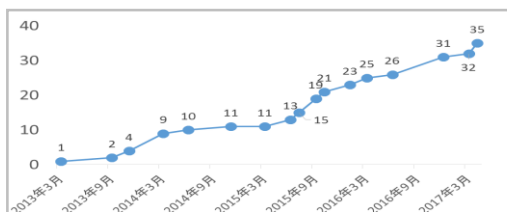
1. 65歳以下で就業または就学している
2. 病院・オーバーナイト透析の規律が遵守でき、迷惑行為、暴言がない
3. 心電図：致死的不整脈がない
4. 冠動脈疾患や脳血管疾患の既往がある時
⇒現在症状がなく落ち着いている
5. 心エコー所見において壁運動異常がなく、左室機能がEF≥45%
6. 明らかな中等度以上の弁膜症がない
7. 透析導入期指導が完了している

● オーバーナイト透析の利点

1. 長期透析合併症リスクが減少し、生命予後が良くなる
2. 仕事や日常生活の時間帯が広がり、充実した日々を過ごせる
3. 食事制限が小さくなり、食事を楽しむことができる
4. 循環動態の安定した十分な透析で血圧は安定し、体調が良くなる
5. 降圧薬、リン吸着薬などの内服薬が減少し、ESAも減量できる
6. 満足度の高い充実した生活が新しい目標を目指す気持ちにさせる



オーバーナイト透析患者さんの通勤圏は広域



(増子記念病院のオーバーナイト透析患者数の推移)



十分な安全監視体制の下、パーテーションでプライバシーに配慮し、睡眠確保ができる透析環境が整備されています